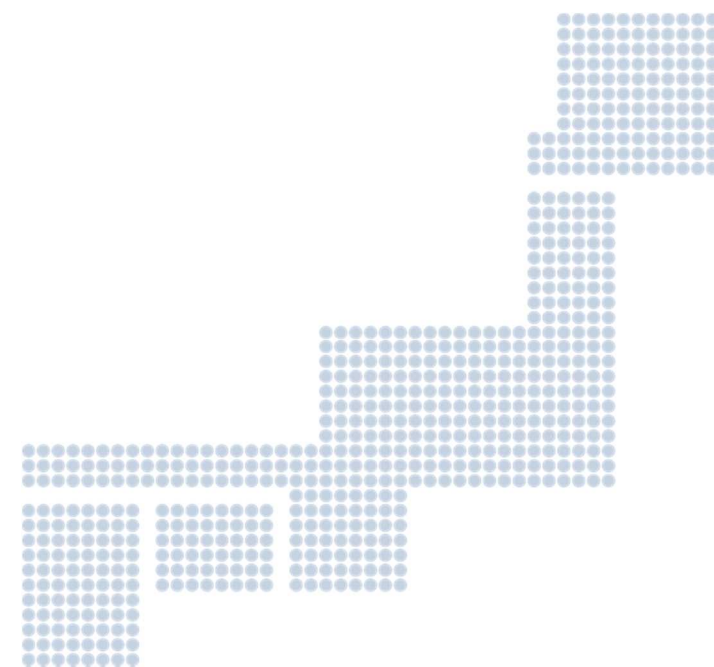
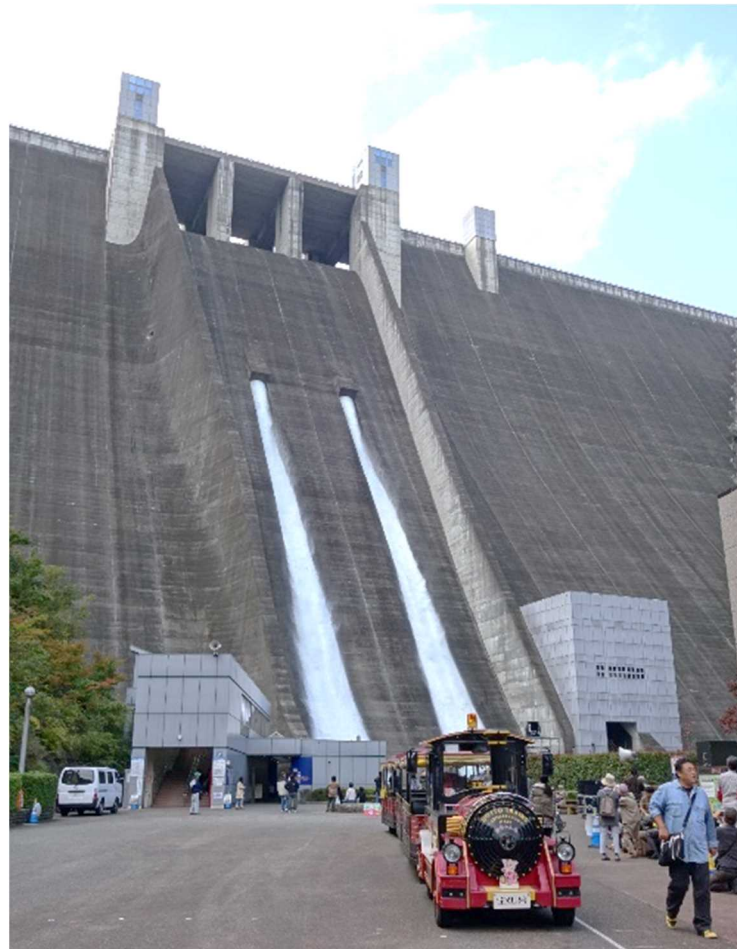


インフラツーリズムの拡大に向けて



1. インフラツーリズムの理念
2. インフラ公開の現状と課題
3. インフラツーリズム拡大の勘所
4. 今後の取組

1. インフラツーリズムの理念



宮ヶ瀬ダム

1. インフラツーリズムの理念

- インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラ施設の内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

<目指す方向性>

- インフラへの理解を深める
- 地域に人を呼び込む
- 地域との連携を拡大する

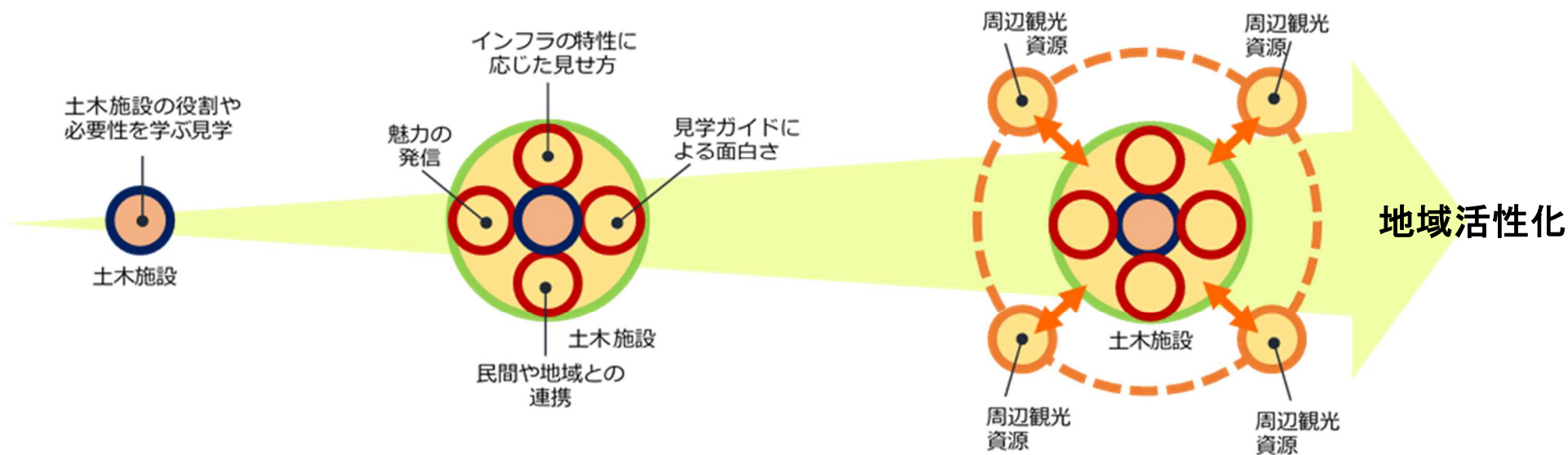
1. インフラツーリズムの理念

- 土木広報からスタートした見学会に付加価値を付けることにより、施設の魅力がアップする。
- さらに周辺の観光資源と連携することにより、地域活性化に寄与する。

インフラツーリズムの理念(イメージ)

(土木広報 + α の付加価値) × 周辺観光資源

地域活性化



■土木広報

土木施設の役割や必要性を伝える

■土木広報 + α の付加価値

インフラの特性に応じた見せ方、見学ガイドによる面白さ、魅力の発信、民間や地域との連携などの付加価値を付ける

■(土木広報 + α の付加価値)

× 周辺観光資源

周辺の観光資源などと連携して、地域の魅力度を高め来訪者の滞在時間を増やし地域活性化を図る

2. インフラ公開の現状と課題



津軽ダム

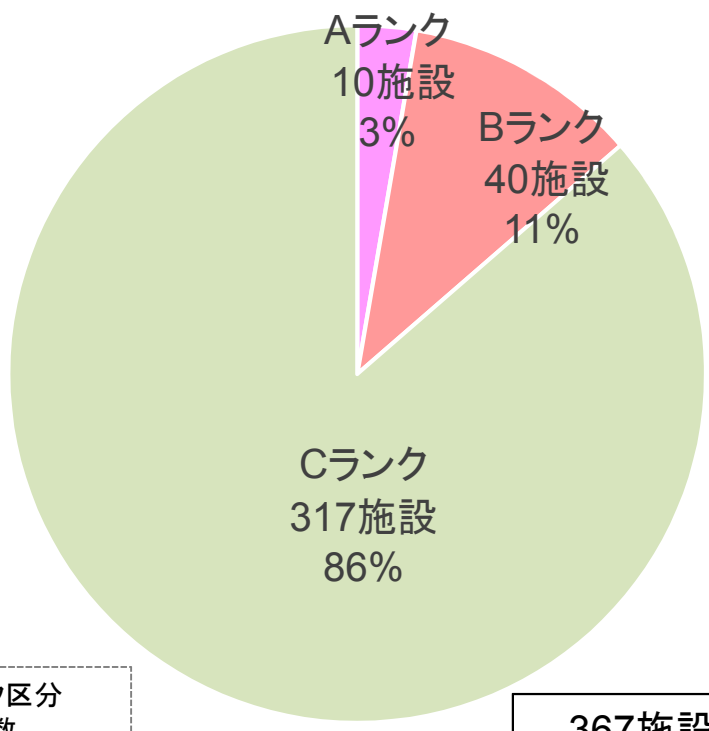
2. インフラ公開の現状と課題

〔インフラ施設のランク〕

○ Aランクの10施設に、施設来訪者数全体の年間約50万人のうち、約6割(28万人)が来訪。

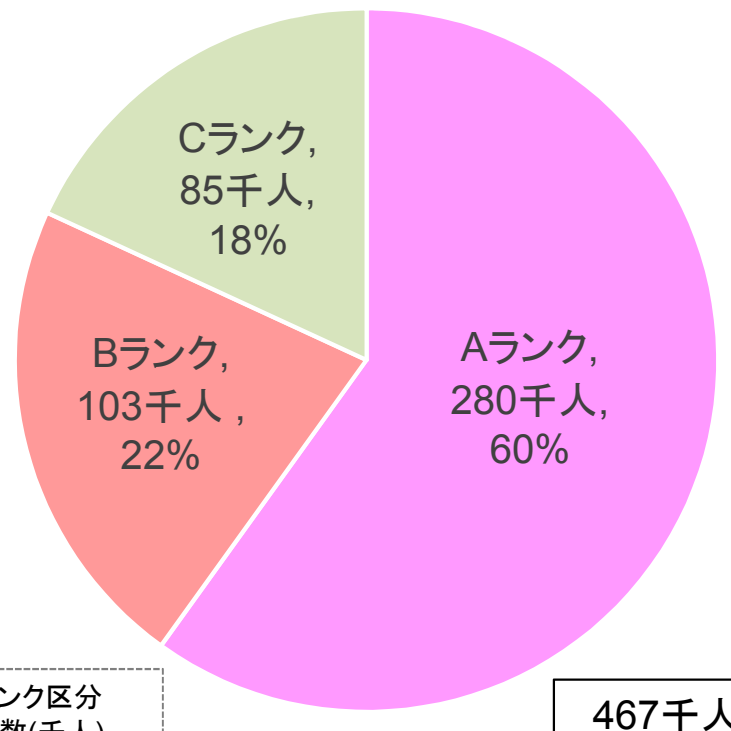
Aランク：10,000人≦年間来訪者数
Bランク：1,000人≦年間来訪者数<10,000人
Cランク：年間来訪者数<1,000人

ランクごとの施設数



凡例：ランク区分
施設数
全体割合 (%)

ランクごとの来訪者数



凡例：ランク区分
人数(千人)
全体割合 (%)

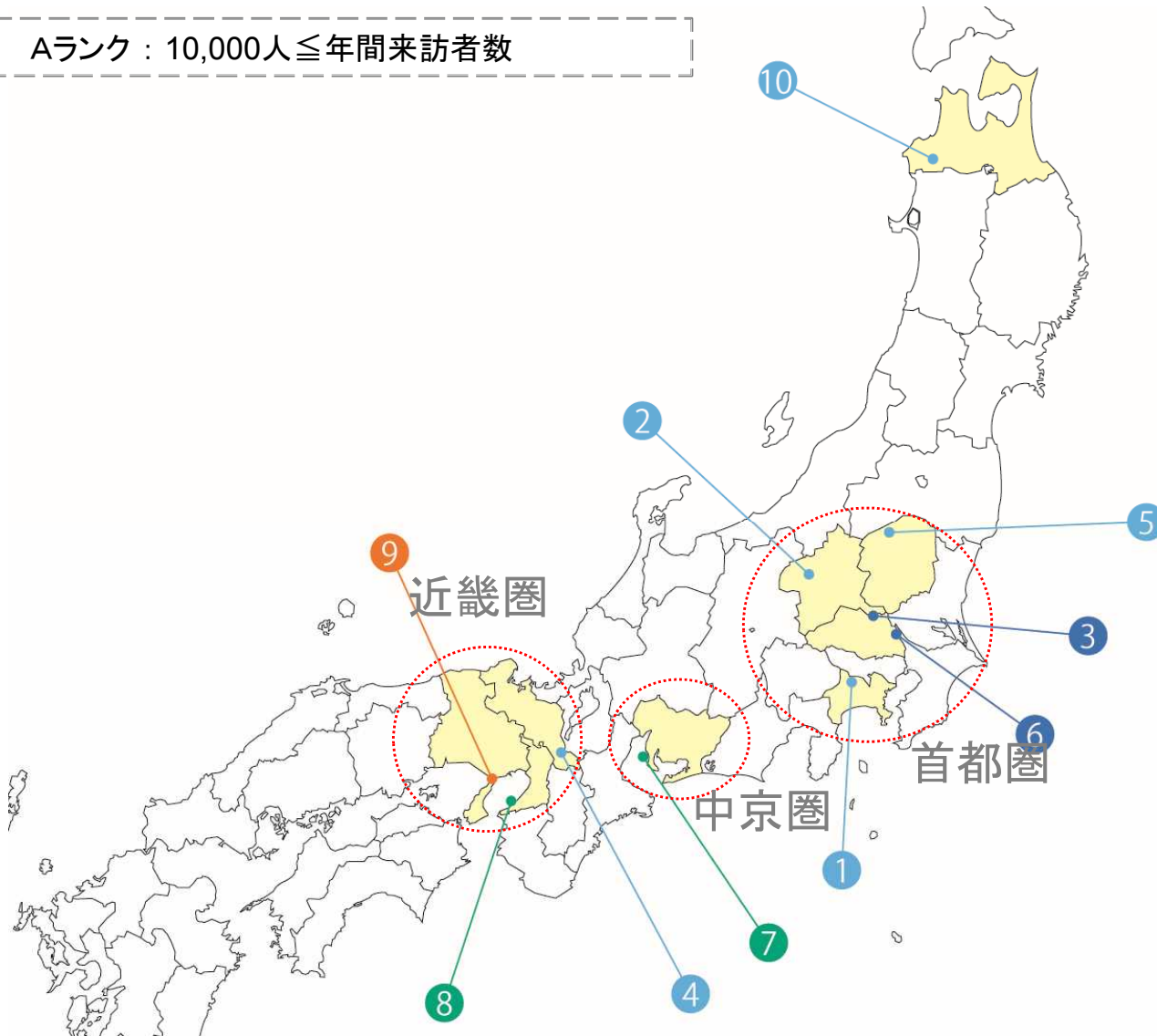
※ポータルサイト掲載施設を対象としたアンケート結果を集計 (H29年度分)

2. インフラ公開の現状と課題

〔Aランクのインフラ施設の分布と数〕

- Aランクのインフラ施設は、ほとんどが大都市圏近郊に集中している。
- 津軽ダムは、世界遺産である白神山地の近郊に位置している。

Aランク：10,000人≦年間来訪者数



■ Aランクのインフラ施設

名称	見学者数
①宮ヶ瀬ダム	102千人
②ハツ場ダム	29千人
③利根導水路	28千人
④天ヶ瀬ダム	26千人
⑤湯西川ダム	22千人
⑥首都圏外郭放水路	20千人
⑦中部国際空港	18千人
⑧関西国際空港	14千人
⑨明石海峡大橋	12千人
⑩津軽ダム	10千人

■ Aランクの種類別の施設数

	種類	数
●	道路	1
●	河川	2
●	ダム	5
●	空港	2

2. インフラ公開の現状と課題

〔Aランクのインフラ施設の概要〕

- Aランクのインフラ施設の特徴と背後地・マーケットの状況は、以下のとおり。
- いずれの施設も、土日の受け入れも行っている。

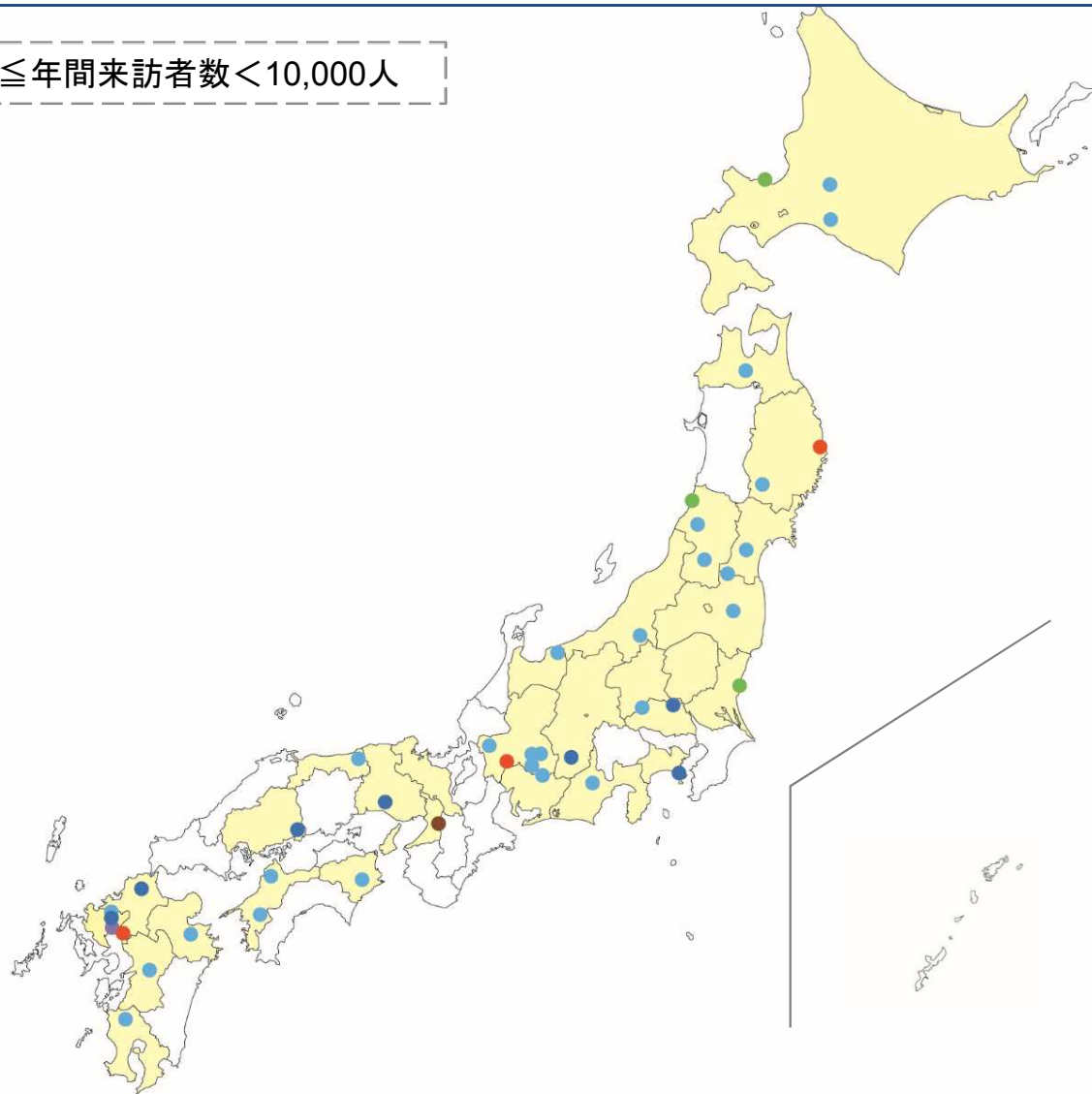
Aランクの施設	来訪者数	特徴等	特性に応じた見せ方	ガイド	魅力の発信	民間や地域との連携	背後地・マーケット
宮ヶ瀬ダム	101千人	観光放流の予定の周知	○		○	○	東京近傍
ハツ場ダム	29千人	建設中の多彩な見学ツアー	◎ 10のツアー	○	○	○	草津温泉の近傍
利根導水路	28千人	地域の小学校の社会科見学を受入	○				東京近傍
天ヶ瀬ダム	26千人	駅から近いダム	○		○	○	京阪宇治駅から約3km 世界遺産平等院近傍
湯西川ダム	22千人	水陸両用バスツアー	○	○		○	東京近郊の温泉地 (湯西川・川治・鬼怒川温泉等)
首都圏外郭放水路	20千人	インスタ映えする防災地下神殿	○	○	○	◎ 民間での運営	東京の近傍
中部国際空港	18千人	空港見学ツアー	○	○		○	名古屋の近傍
関西国際空港	14千人	空港見学ツアー	○	○		○	大阪の近傍
明石海峡大橋	12千人	巨大つり橋の主塔登頂ツアー	○	○		○	神戸の近傍
津軽ダム	10千人	水陸両用バスツアー	○			○	世界遺産の白神山地への入口 ⁸

2. インフラ公開の現状と課題

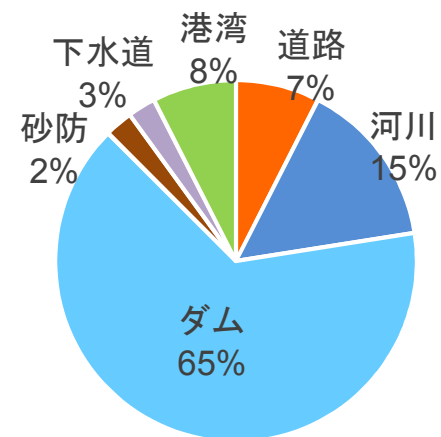
〔Bランクのインフラ施設の分布と数〕

- Bランクのインフラ施設は、全国に分布している。
- ダムが最も多く26施設で、Bランク全体の65%。次いで河川が6施設。

Bランク：1,000人≦年間来訪者数<10,000人



■ Bランクの種類別の施設割合



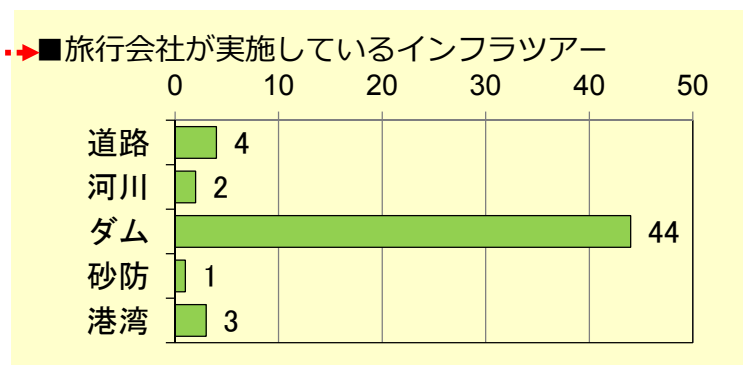
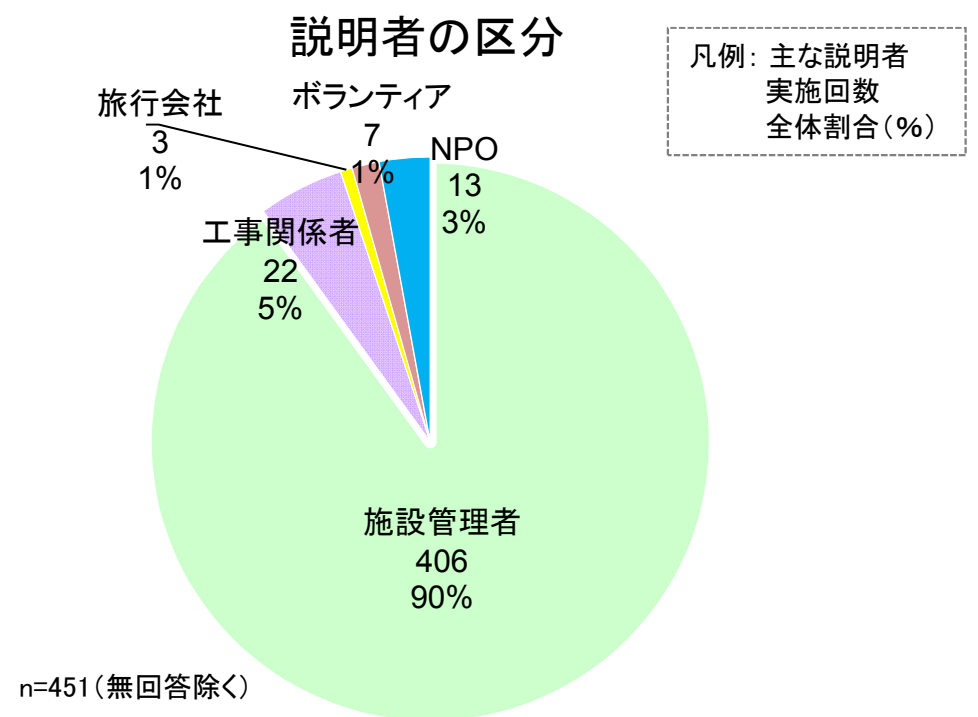
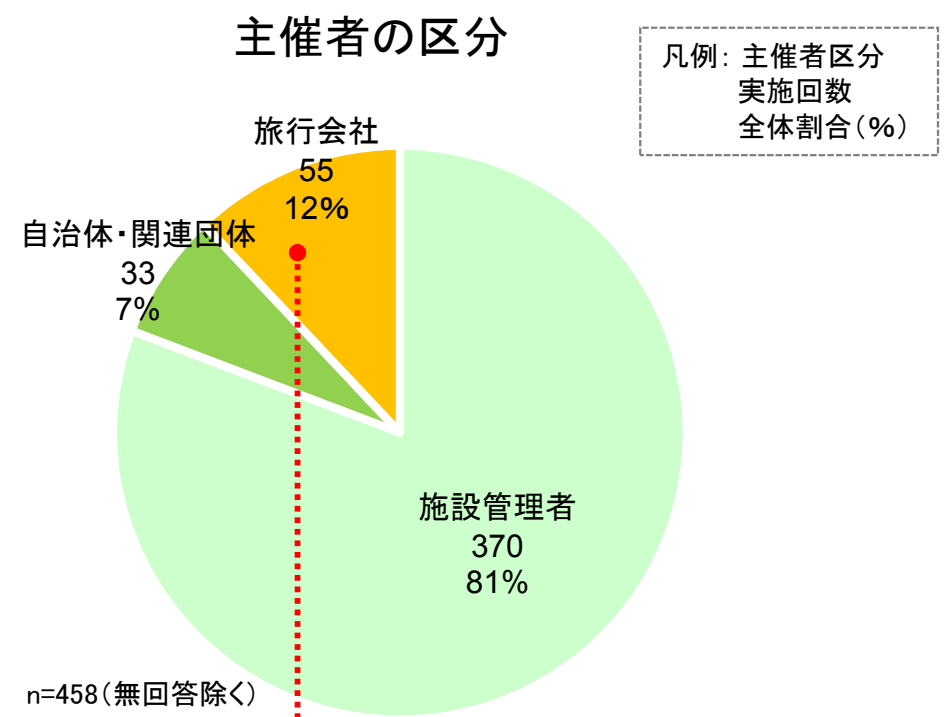
■ Bランクの種類別の施設数

	種類	数
●	道路	3
●	河川	6
●	ダム	26
●	砂防	1
●	下水道	1
●	港湾	3
	合計	40

2. インフラ公開の現状と課題

〔主催者・説明者〕

- 約8割が施設管理者が主催。旅行会社主催のツアーの約8割はダムで実施。
- 約9割が施設管理者が説明を実施。



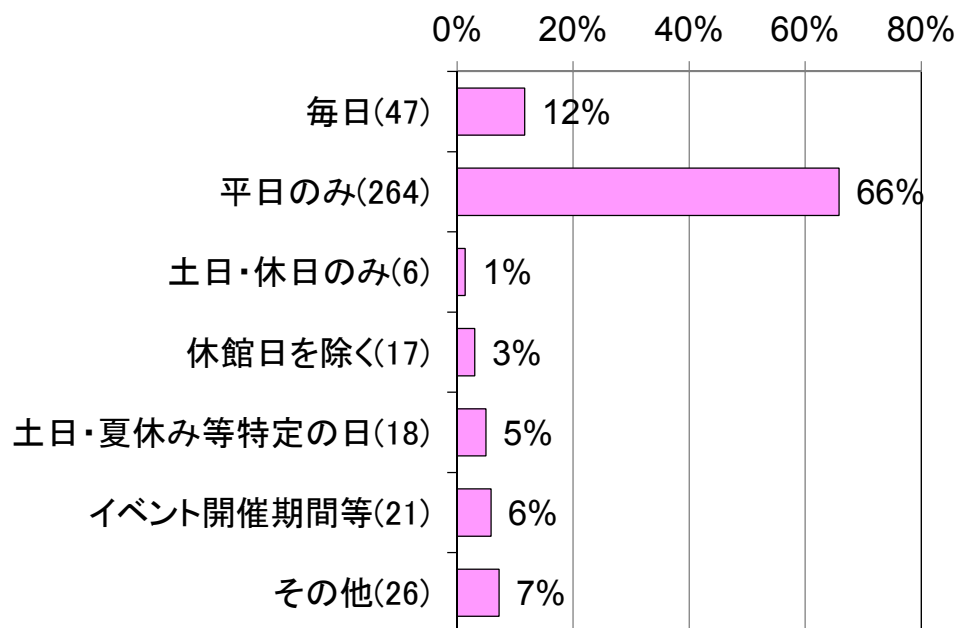
※ポータルサイトに掲載した施設への状況調査結果を集計
※1つの施設で複数回実施している場合がある

2. インフラ公開の現状と課題

〔開催日〕

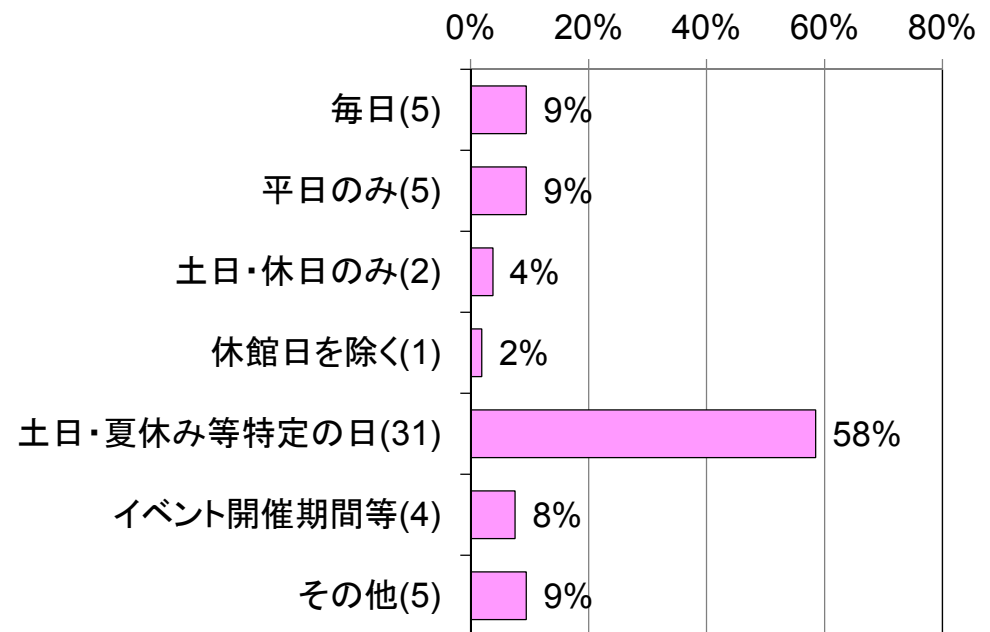
- 施設管理者・自治体は約7割が平日のみの開催。
- 旅行会社のツアーは、平日のみでの開催は少なく、土日や夏休みなどの旅行しやすい日程で調整して実施。

開催日（施設管理者・自治体）



()は実施回数
n=399(無回答を除く)

開催日（旅行会社）



()は実施回数
n=53(無回答を除く)

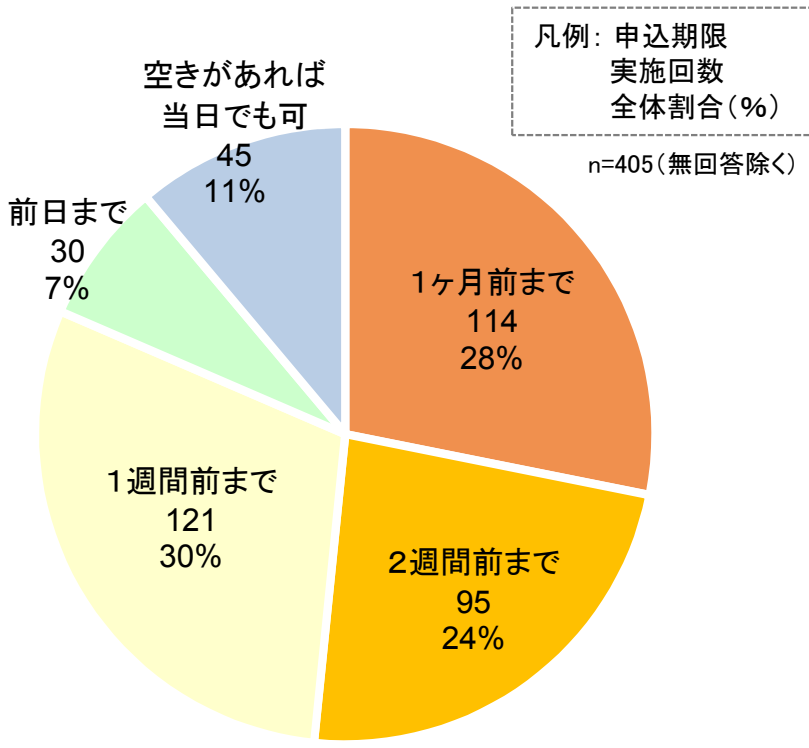
※特定の日：
旅行会社が指定又は施設管理者側との調整により
土日や夏休み期間などで実施

2. インフラ公開の現状と課題

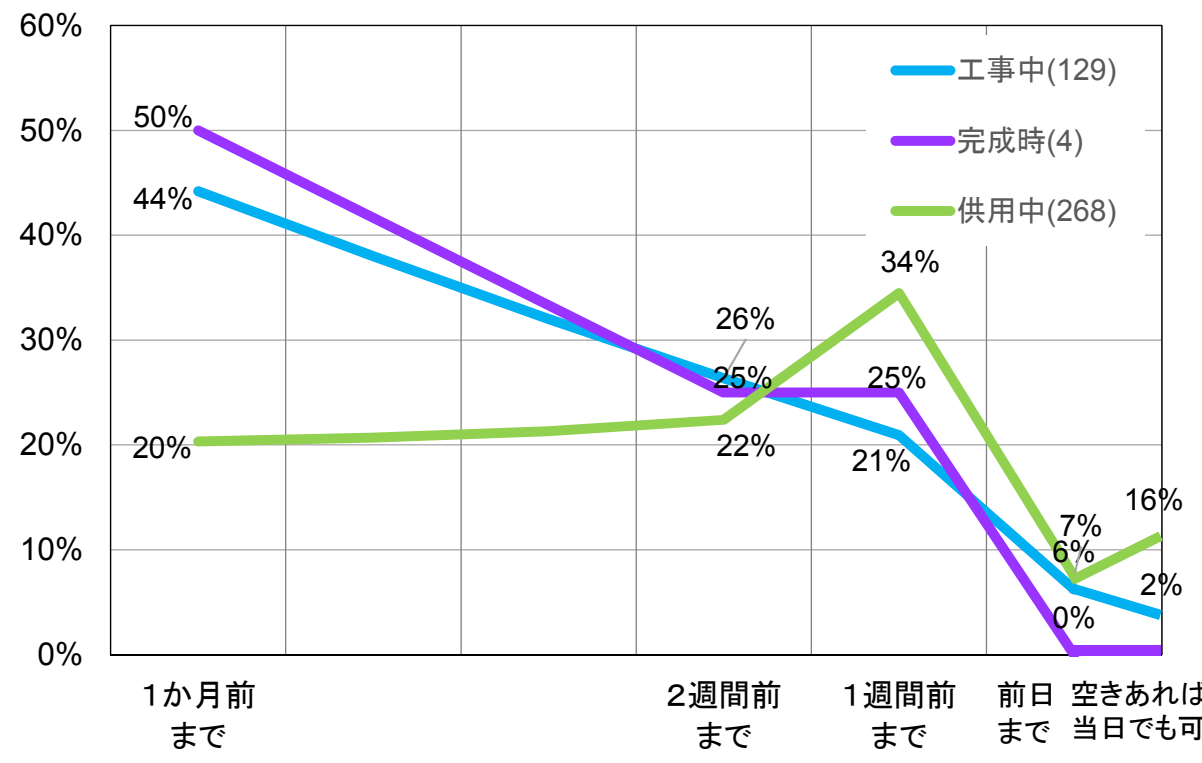
〔申込期限〕

- 申込期限は、「1ヶ月前まで・2週間前まで」で約5割。「当日でも可」は約1割。
- 工事中は「1ヶ月前まで」が多く、理由として「工事の進捗状況との調整」や「現場の準備」、「説明者の調整」などが挙げられる。

申込期限



施設分類別の申込期限

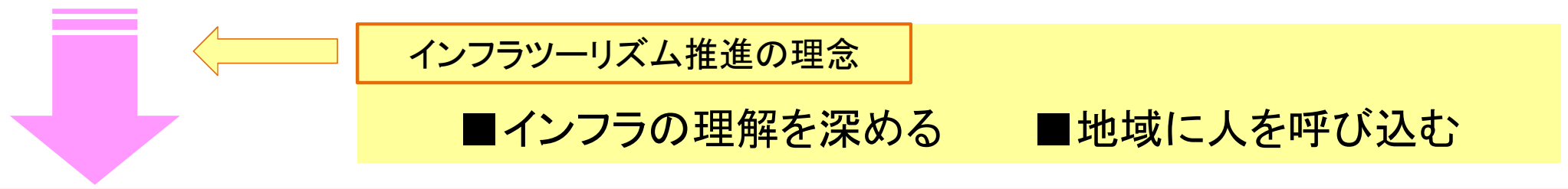


()は実施回数
n=401 (無回答を除く)

2. インフラ公開の現状と課題

【現状・課題】

- 来訪者の多い施設は現状では大都市近郊にある。一方、今後來訪者の増加に取り組む施設は全国に分布。
- インフラの公開は、主に施設管理者が運営していることから平日開催が多い。
一方、来訪者が多い施設は、公開方法・広報を工夫し、土日・祝日に公開している。
- 第1回懇談会では、インフラツーリズムを拡大していくための課題を以下の7項目として整理。
 - 1.施設の見せ方 2.広報周知 3.対応要員の確保 4.安全性の確保
 - 5.受入環境の整備 6.持続性の確保 7.地域との連携



来てもらう ⇒ インフラ施設を楽しんで理解してもらう ⇒ 地域に滞在してもらう を実現するため

【今後の方向性】

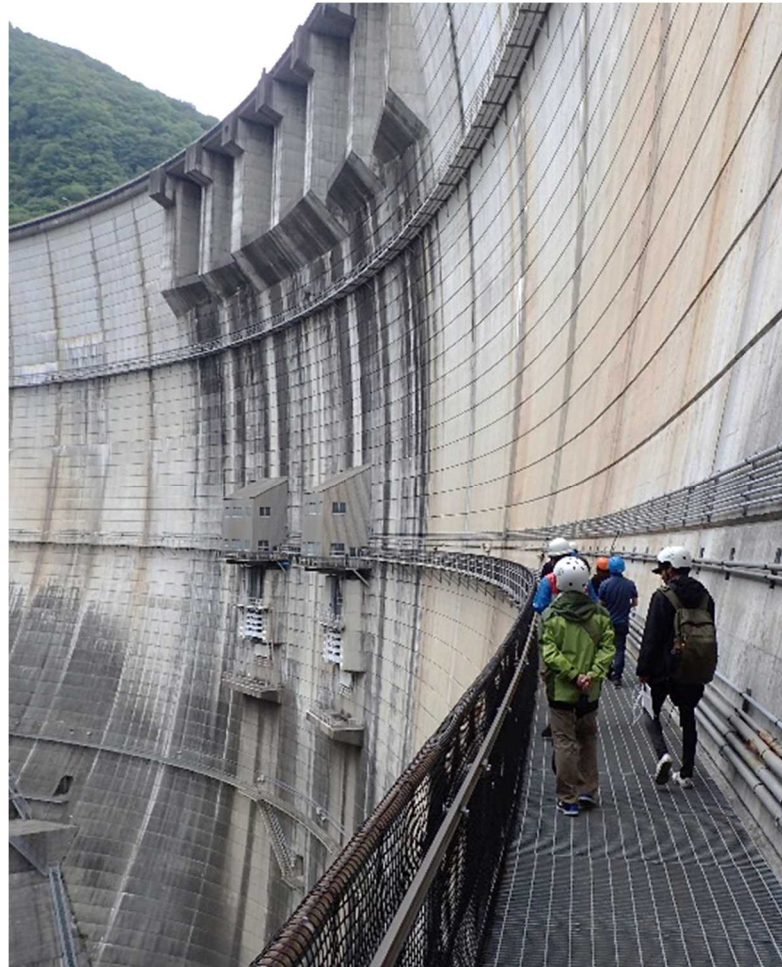
- ◆ 魅力的な施設の見せ方 ◆ 魅力発信 を中心に実施
- さらに、◇ 施設の受入体制 ◇ 持続的な展開 についても実施

好事例の分析・抽出

「観光資源」としてのレベルアップ

好事例の展開に向けた「勘所」とりまとめ

3. インフラツーリズム推進の拠点



川治ダム

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

○ インフラツーリズムの課題へ対応する好事例を

①人を呼び込む、②より多くの人を受け入れる、③持続的に展開する ための工夫に分け
好事例を分析し、インフラツーリズムの「勘所」として整理する。

① 人を呼び込むための工夫

①-1 施設の見せ方

- ・施設の魅力を高める見せ方
- ・施設の活用

①-2 魅力発信

- ・インフラ施設の魅力を発信する

② より多くの人を受け入れるための工夫

②-1 対応要員の確保

- ・施設管理者以外の説明者を確保する

②-2 受入環境の整備

- ・限られた空間を有効に活用する

②-3 安全性の確保

- ・見学者に対する対応
- ・施設利用者に対する対応
- ・施設管理への対応(危機管理)

③ 持続的に展開するための工夫

③-1 持続性の確保

- ・民間事業者の参入を支える組織づくりの対応

③-2 地域との連携

- ・より地域活性化を深めるための対応

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

①-1 施設の見せ方

- インフラツーリズムで、インフラがもつ観光としての魅力を生かす。
- 施設の様々な活用により、インフラツーリズムを知らない層にもインフラの魅力が伝わるきっかけとなる。

スケール感



インフラツーリズム

非日常感



歴史・ストーリー



呼び水

見学以外の施設の活用



「インフラを観光に行く」
ではハードルが高い施設も、
他の活用方法を生かしながら
インフラツーリズムを推進

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

①-1 施設の見せ方

○ 参加者の満足度を高めるため、インフラ施設の特性に応じた見せ方や、増加するインバウンドへの対応の工夫を紹介。

〈多彩なツアーの実施〉

◇ 周辺環境等を活かした多彩な見学ツアーを開催
(関東・ハッ場ダム)

- 工事事務所と道の駅が主催して、個人向け、団体向けの10コースの多彩なツアーを実施。
- その一つとして浅間山噴火から地域の物語を語るジオパーク見学会の開催。
- 自由に見学できる展望台の整備。



10コースの一つであるジオパーク見学会

〈キラコンテンツの予定の周知〉

◇ 観光放流の年間予定の公開
(関東・宮ヶ瀬ダム)

- キラコンテンツである観光放流の年間予定をわかりやすくカレンダー形式で公開。

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

宮ヶ瀬ダムの観光放流の予定表
(青: 定期観光放流、赤: 臨時イベント放流)

〈アプリによるインバウンド対応〉

◇ スマートフォンアプリ活用
(関東・首都圏外郭放水路)

- スマートフォンのアプリで英語、中国語などの説明に対応。
- 音声での案内も可能。



スマートフォンを活用したインバウンド対応

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

①-2 魅力発信

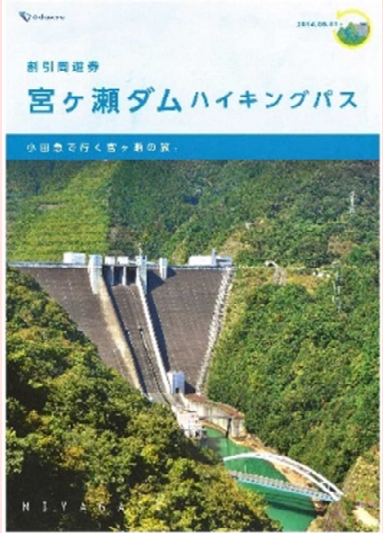
○他組織(民間事業者、観光協会、自治体観光部局)と連携している事例や、管理者が自ら取り組んでいる事例を紹介。

〈他の情報発信コンテンツを活用〉

◇多様な主体との連携による情報発信 (関東・宮ヶ瀬ダム)

<鉄道会社と連携>

- 鉄道駅・鉄道車両内等でのポスター掲示やチラシ配布。
- JR観光キャンペーン等の活用。
- 最寄り駅とインフラ施設を結ぶ周遊券の販売。



小田急電鉄による宮ヶ瀬ダムと最寄り駅間の周遊券

<周辺自治体と連携>

- 神奈川県が作成する広域観光パンフレットの表紙に宮ヶ瀬ダムの写真を掲載。
- 宮ヶ瀬ダムを観光資源と位置づけ、周辺観光施設とあわせて宮ヶ瀬ダムの資源や施設を掲載。



県内8市町村の観光資源を『丹沢・相模観光ナビ』として紹介するパンフレット

〈管理者の取り組み〉

◇観光案内所での手づくりチラシの配布 (近畿・天ヶ瀬ダム)

- 管理者の職員が手づくりでダム見学を案内するチラシを作成。
- ダムに近い京阪宇治駅内にある観光案内所で配布。



「宇治のもう一つの観光名所『天ヶ瀬ダム』」のキャッチフレーズで暖かみのあるチラシ

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

①-2 魅力発信

- ダムカード・マンホールカード等のインフラカードがコレクターを中心に高い人気。
- ダムをモチーフにしたダムカレーを提供するお店が全国で増えている。

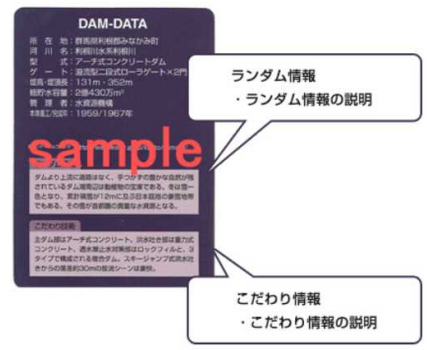
〈カードによる情報発信やインフラをモチーフにしたサービスの提供〉

〈ダムカード〉

- 国土交通省、独立行政法人水資源機構、都道府県・発電事業者の一部が発行
- 平成30年4月時点で668箇所（統一デザイン）で配布中



ダムカードの型式
・A,E,G,GA,GF,HG,MB,R,FAの説明



こだわり情報
・こだわり情報の説明

〈マンホールカード〉

- 地方公共団体の一部と下水道広報プラットフォームとで発行
- 平成30年12月時点で478種407自治体で配布中



〈ダムカレー〉

- ダム近隣の飲食店で提供されるダムをモチーフにしたカレー



宮ヶ瀬ダム ダムカレー



ダムカレーガチャも登場

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

○ より多くの人を受け入れるための工夫を紹介。

②-1 対応要員の確保

◇民間等が主催して解説を実施している事例

<民間の見学会運営先の公募>



民間の運営により土日・祝日も見学会を開催。
(関東・首都圏外郭放水路)

<認定ボランティア>



認定ボランティアによる案内。
(中部・駒ヶ根高原砂防フィールド
ミュージアム運営協議会)

②-2 受入環境の整備

◇多くの来訪者を受け入れるため駐車場やトイレ、バリアフリーへ対応している事例

<駐車場>



ダム周辺は駐車スペースが少ないため、下流の駐車場から無料シャトルバスを運行し対応。地元宿泊者にはファストパス配布。
(関東 矢木沢ダム)

<バリアフリー>



エレベーターの入口部分にある段差を解消できるように、携帯用スロープを設置。
(関東 川治ダム)

②-3 安全性の確保

◇見学者・施設を利用する人(橋を渡る人など)への安全性、危機管理に対する安全性に取り組んでいる事例



管理用の柵では隙間が大きく危険なため、網フェンスを設置し対応。荷物の持ち込みを制限することで、見学中の安全性を確保するとともに危険行為対策も兼ねる。

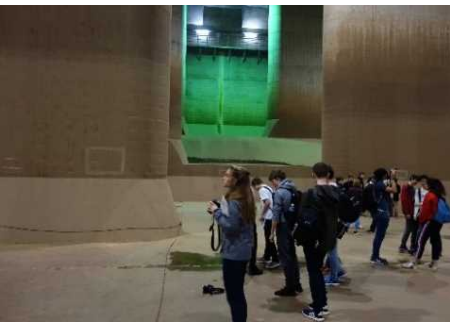
(関東 川治ダム)

3. インフラツーリズム推進の勘所 ～好事例のポイント～

○ インフラツーリズムを持続的に展開するための工夫を紹介。

③-1 持続性の確保

◇協議会等を設けて、地域と連携し、持続性を確保しながら取り組んでいる事例



「首都圏外郭放水路利活用協議会」(国、春日部市など)を設置し、民間が見学会を運営。
(関東 首都圏外郭放水路)



「水陸両用バス導入協議会」※を設立し、民間がツアーを実施。
(関東 湯西川ダム)

※「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」に基づく協議会



「八十里越道路活用暫定懇談会」(事務局:只見町・三条市)を設置し、国・県と連携してツアーを実施。
(北陸 国道289号線工事)

③-2 地域との連携

◇地域の資源・地元宿泊施設・地元店舗(道の駅)と連携している事例

歴史ロマン～戊辰戦争の史跡をめぐる旅



八十里越の工事現場見学と近隣の史跡を組合わせてツアーとして商品化。

(北陸 国道289号線工事)



近隣の道の駅と連携し、防災地下神殿カードで道の駅の商品を割引サービス。

(関東 首都圏外郭放水路)

4. 今後の取組



国道289号 八十里越

4. 今後の取組 ～観光資源としてのレベルアップ～

○ インフラツーリズム推進の「勘所」を踏まえ、インフラ施設を「観光資源」としてレベルアップさせていく。

インフラツーリズムの勘所

人を呼び込むための工夫

- 施設の見せ方
- 魅力発信

より多くの人を受け入れるための工夫

- 対応要員の確保
- 受入環境の整備
- 安全性の確保

持続的に展開するための工夫

- 持続性の確保
- 地域との連携

実行性を高め、目に見える形での取組とすることで観光資源としてレベルアップし、「インフラツーリズム」の推進に繋げる



短期的な取組の方向性(案)

- ・モデル地区で社会実験し、成果を展開
- ・国内外に向け魅力ある広報を展開
- ・訪日外国人のニーズを把握したインバウンド対応

パッケージで取り組み、目に見える成果を上げるため、

「プロジェクト」
として取り組む

中長期的な取組の方向性

4. 今後の取組 ～観光資源としてのレベルアップ～

「プロジェクト」のイメージ

▼民間運営のツアー実施



▼協議会等により地域との連携



社会実験

▼魅力ある多彩なツアー設定



▼訪日外国人のニーズ調査



▼スマホアプリの活用



▼ポータルサイトの充実

▼プロジェクトのロゴマーク作成



インバウンド

▼モニターツアーの実施



2020年 年間来訪者数 約100万人へ

4. 今後の取組 ～観光資源としてのレベルアップ～

【中長期的な取組の方向性】

○ 中長期的な取組の方向性を検討していく際に、必要な項目。

1. リピーターの確保のための方策
2. 満足度を高めるための施設の見せ方
3. ガイドの育成・担い手の確保
4. 地域への経済波及効果増大の方策
5. 民間事業者参入の推進

等

4. 今後の取組

○ 今年度はインフラツーリズム拡大の理念や手引きをとりまとめ、
 次年度からは2020年を目標にした「プロジェクト」を立ち上げ、短期的な取組として実行していく。

2018	2019	2020	中長期
理念の整理			
勘所の分析・抽出			
手引きの作成	内容の充実		
プロジェクト		モデル地区で社会実験	モデルで得られた知見を全国展開
		魅力ある広報の展開	積極的な展開によるさらなる拡大
		インバウンドへの対応	ニーズを踏まえた新たな展開
		中長期的な取組の検討	プロジェクト等を踏まえた中長期的取組